

## 別紙様式 1

### 令和 3 年度 指定管理者運営状況点検・評価シート

対象施設名	腕山放牧場	施設所在地	三好市西祖谷山村
指定管理者名	徳島県酪農業協同組合	指定期間	平成 3 0 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 3 1 日
施設所管課	畜産振興課	【連絡先】	0 8 8 - 6 2 1 - 2 4 1 8

#### 1 施設の概要

設置年月日	昭和 3 4 年
設置目的	県内酪農家から預けられた乳用育成牛を放牧して強靱な後継牛を育成し、本県酪農の振興を図る。
施設内容	牧場総面積 5 5 h a、看視舎 1 棟、畜舎 1 棟、堆肥舎、飼料庫 1 棟、公衆便所 1 棟、展望台 1 台
利用料金等	牛一日一頭 4 8 0 円
開館日・休館日等	放牧期間：休牧

#### 2 指定管理者の業務

指定管理者の業務内容	<p>入牧している牛の飼養管理に関する業務          放牧場の施設、物品等の維持管理に関する業務          放牧場の利用料金に関する業務          その他、放牧場の管理に関し知事が必要と認める業務</p>
------------	--

#### 3 施設の管理体制

管理体制	<p>正職員 0 名 臨時職員 0 名 計 0 名          本年度は、近年の入牧牛のピロプラズマ症罹患牛増加を受け、休牧対応することが決まったため、管理業務は発生しなかった。</p>
------	--

#### 4 施設の利用状況

利用者数 (人)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
	R 3 年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	前年度	0	7	7	7	6	6	6	0	0	0	0	0	0	39
	前々年度	0	10	9	8	8	8	8	0	0	0	0	0	0	51

月別利用 料金収入 (千円)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	R 3 年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	前年度	0	53	317	326	300	288	221	0	0	0	0	0	1,505
	前々年度	0	32	322	317	306	296	247	0	0	0	0	0	1,520

施設毎 利用料金収入 (千円)													計
	R 3 年度	0											0
	前年度	1,505											1,505
	前々年度	1,520											1,520

## 5 収支の状況

(単位：千円)

項目		令和3年度	令和2年度	令和元年度
収入	指定管理料	0	0	0
	利用料金収入	0	1,505	1,520
	事業収入	0	0	0
	その他	0	0	0
	計	0	1,505	1,520
支出	人件費	0	1,170	1,113
	管理運営費	0	87	86
	事業費	0	248	321
	その他	0	0	0
	計	0	1,505	1,520
収支		0	0	0

## 6 コスト削減・サービス向上に関する取組状況

コスト削減の取組	<p>当放牧場では、牧養力の低下を補うため一部購入飼料を給与しているが、近年、コロナウイルスや円安の影響により、輸入粗飼料や配合飼料が高騰しており、今後のコスト増加が懸念されるため、放牧再開時に向け、輸入飼料の生産・流通に関する情報収集に努めるとともに、国が示している効率化・最適化対策を放牧牛管理へ取り入れコスト削減できないか検討している。</p>
サービス向上の取組	<p>休牧の決定を受け、放牧場が担ってきた人工授精（繁殖）に対する要望にこたえるため、県畜産研究課に整備された牛繁殖施設を代替施設として有償借受し、農家から育成牛を受け入れるとともに人工授精を行った。</p> <p>また、放牧の早期再開に向け、県が行っている休牧の原因となったピロプラズマ症を媒介するダニや、牧養力の回復調査に協力した。</p>

## 7 自主事業の取組状況

自主事業取組状況	<p>農家の後継牛確保による計画的な経営改善につながる取組を実施。</p> <p>具体的には、県畜産研究課に整備された牛繁殖施設を代替施設として有償借受し、農家から育成牛を受け入れ人工授精を行っているほか、農家の後継牛確保に向けた交配計画の策定への協力や、性別別受精卵の利用や高受胎率性別別精液の利用推進に努めるなど、よりきめ細やかに農家の要望に応えられるよう取り組んでいる。</p>
----------	--

## 8 管理運營業務に係る点検・評価

項 目	評 価	点 検 結 果
①利用者ニーズの把握・分析と利用促進 ・利用者ニーズの把握 ・利用者ニーズへの対応 ・施設の利用促進	A	休牧にあたり、利用者の要望に対し、代替方法により対応するとともに、より効率的な後継牛確保の利用促進に努めている。
②自主事業 ・計画した自主事業の実施	A	農家ニーズに応じて人工授精（繁殖）の要望に対し、県有施設を代替施設として有効活用するなど自主事業により対応している。
③適正な維持管理 ・施設の保守管理・修繕 ・年間作業計画に基づく適正な維持管理 ・県備品等の適正な管理	A	放牧場の実態調査時に保守点検を行っている。
④収支計画 ・収支計画の達成状況 ・コスト削減の状況 ・外部委託の状況	A	牧養力の低下を補うための一部購入飼料の高騰に対し、放牧再開時に向け、輸入飼料の生産・流通に関する情報収集に努めている。また、放牧再開時に向けて、国が示している効率化・最適化対策の放牧牛管理へ取り入れを検討するなどコスト削減に取り組んでいる。
⑤管理運営体制等 ・管理運營業務計画書 ・職員の配置、研修計画 ・諸規程の整備 ・利用料金の徴収、減免 ・モニタリングの実施状況	A	休牧にあたり、事前に職員配置や業務計画について、代替施設への配置転換等により適正な見直しを行っている。また、休牧時の農家に対するサービス維持・向上にも積極的に取り組んでいる。
⑥職員体制 ・職員の労働条件	A	休牧にあたり、事前に職員や業務計画について、適正な見直しを行っている。
⑦地域への貢献 ・地元雇用の状況 ・地元企業への業務委託	B	休牧により、管理人の配置が無くなったため地元雇用を一時中止している（放牧再開時には地元雇用を再開予定）が、代替施設において地元での雇用を実施している。
⑧地域との連携 ・地元団体等との連携	A	腕山放牧場まで通じる牧道が市道になっているため、市と連絡を図りながら、通行の維持に努めている。また、西部森林組合、東部森林組合と協議し、木材積み込み・運搬作業の効率化に協力している。
⑨安全管理 ・安全管理体制、事故防止体制 ・災害等発生時の対応体制 ・マニュアルの整備、職員教育 ・個人情報保護への適正対応	A	緊急時の連絡体制の整備がなされ適正な管理が実施されている。

項 目	評 価	点 検 結 果
⑩環境への配慮 ・環境対策の状況	A	放牧場の実態調査時に野生鳥獣害やダニ生息数の調査等、周辺環境の状況調査を行っている。
⑪その他 ・関係法令の遵守状況 ・情報公開請求への対応体制	A	個人情報取扱特記事項を遵守等、適正な管理が行われている。
総合評価	A	適正な管理が行われている。

〈評価指標〉 S：協定書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われている。  
A：概ね協定書の内容とおりの成果があり、適正な管理が行われている。  
B：協定書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫や努力が求められる。  
C：管理運営が適正に行われたとは認められず、改善を要する。

※ 項目については、事業計画書と整合性をはかる。

## 9 その他（今後の課題及び対応等）

近年、県内酪農家戸数減少の影響をうけ入牧頭数は減少傾向にあるが、育成部門の預託は育成牛の強靱性や運動機能を高めるだけでなく、酪農家の労働負担の軽減や搾乳業への専念による乳量増加・受胎率向上に繋がるなど生産者側の利点も多い。また、ここ数年の輸入飼料価格の高騰を受け、海外の情勢に左右されにくい放牧場などの自給飼料を活用した育成方法の評価が高まりつつある。このため、今後も県内酪農家に対し、預託の有効活用・メリットについて周知を図り頭数の増加に努める必要がある。

一方、本年、野生鳥獣やダニによる疾病増加への対処として休牧となったことは、農家の資産である牛の安全性を考慮するとやむを得ない判断と理解しており、この間の農家ニーズの一つである繁殖に対しては、代替施設の有効活用等で対応を進めているところである。しかし、放牧でしか得られない育成牛の強靱性や運動機能の向上の効果は大きく、農家のニーズ・評価も依然高いことから、放牧の早期再開に向け、放牧場の実態調査等、関係機関と積極的に協力し取り組む。